

丁寧生きる

「頑張って生きる」でもない、「楽しんで生きる」でもない、「丁寧に生きる」というのはとても素敵な言葉だと思います。

某新聞のコラム欄で、女優の風吹ジュンさんが「必死に生きてきた時代が過ぎて、いま思うのは、丁寧に生きたいということ」と述べておられます。

風吹ジュンさんは数多くの作品に出演すると共に、1991年「無能の人」でブルーリボン賞助演女優賞を受賞するなど、高い評価を得、女優として大きな成功を収めていらっしゃいます。しかし、彼女は、小学生の頃に親が離婚し、その後、様々な事情から兄と一緒に親元を離れて非常に貧しい生活をしてきたこと、18歳で単身上京し、やがて芸能界にデビューし活躍するようになったこと、また、結婚して二人の子を授かっていますが、彼女自身もまた離婚を経験していることなど、ここに至るまでには様々な曲折があったに違いありません。

幾多の難しい局面を乗り越えるために、時にはがむしゃらに、時には世間とも闘ってきたのではないかと思います。彼女の爽やかな笑顔からは、その行く立てを窺い知ることはできません。

彼女は、今もバリバリの現役ですが、間もなく還暦（女性の年をばらすのは誠に失礼ですが）を迎える頃となって、これまでの来し方を振り返る余裕ができたということなのかなと感じています。

「自分は頑張ってきた」といえるのは、仕事にもプライベートにも実績を残してきたという自信の裏打ちがあるからだともいえるでしょう。誰しものがそのように自分の人生を振り返ることができるわけではありませんが、自分の人生を愛おしく思い、大切にしていきたいという姿勢には共感を覚えます。

「丁寧に生きる」という言葉には、自分の人生を大切にしていこうという思いが溢れていると思います。

既に還暦をゆうに過ぎていた私もまた、与えられた時間を、世間に背を向けることなく丁寧に、丁寧に生きていけたら本望です。（塾頭 吉田 洋一）